

9 月度 月例研修会

「大阪上町台地 歴史街歩き」 山本 妙子

台風18号接近との情報の中、日差し強く暑い位の大阪町歩きは、22名の参加でスタート。

近鉄上六9時30分集合。第1番目の大阪で一番古い生國魂神社境内で、川井さんから「上町台地は、遙か上古の時代に“隆起現象”で作られた。縄文期に“縄文海進”により大阪平野は一面海となったが、この台地は残ったと言われている。北は大阪城、南は住吉神社辺りまで南北に続く高台である。大阪の歴史の宝庫でもある。」との興味深い話を拝聴する。

大阪人は「いくたまはん」「住吉^{いくたまづくり}さん」と、親しみを込めて呼ぶ。本殿は「生國魂造」（千鳥破風・すがり唐破風・千鳥破風の様式の違う三破風を重ねている）という、桃山時代の社殿で、境内には11の社がある。米澤彦八の碑、井原西鶴像、松尾芭蕉の句碑なども点在する。



北側に真言坂を見、「天王寺七坂」に入っていく、「齡延寺」を下り、長い源聖寺坂を西へ。

「万福寺（新選組 大阪旅宿跡）」を通り過ぎ、これでもかというほどの寺社がひしめき合う松屋町筋を南下、口縄坂を東へ登っていくと、夫婦善哉・織田作之助文学碑あり。大江神社に入り、狛犬ならぬ狛虎もあるとか。ここで小休止。

ここから見る海に沈む夕日は絶景だったそうで、ここで詠んだ芭蕉の句碑があった。

その東隣に、593年聖徳太子の創建された「勝鬘院愛染堂」(1618年再建・大阪府有形文化財)があり、「多宝塔」は1597年に豊

臣秀吉により再建、重要文化財となっている。

(「愛染さん」は愛敬・人気・縁結びの神様と親しまれ、大阪三大夏祭りの一つ「愛染まつり」では、宝恵カゴが愛染娘を乗せて、谷町筋を練り歩く)

愛染坂を上がり、海が見える料亭であった浮瀬亭跡の石碑を過ぎ、清水坂を下り、「清水寺」にて、涼しげな玉出の滝を眺める。

次は、NHK大河ドラマ「真田丸」の真田幸村が、家康と戦い、傷つき逃げてきた所を急襲され、戦死した場所と言われる「安居神社」。しばし川井さんの話に耳をかたむける。幸村の祖父の偉大さ、六文銭・紋所のいわれなど・・・。

蚊を追っ払いながら興味深く拝聴する。逢坂を残し、聖徳太子の「四天王寺」に向かう(12:20)、ここで昼食をとり、食後は田中さんの案内で、広い境内を講堂、金堂、五重塔とまわり、西門から南へ下っていく。

茶臼山を横目に見て、今回の異色ともいえる在日コリアンの寺「統国寺」へ。602年百済の僧観勒の来日による当寺は、夏の陣で焼失するも、1689年法源和尚により再建され、1969年に朝鮮統一の願いを込めて、「邦福寺」から「統国寺」と改名された。

1990年東西統一を果たした「ベルリンの壁」(たみ一昼程)が二つ、アベノハルカスを背景に据えられている。韓国人の祖国統一の願望を込めての寄贈とか。



続いて、大阪の冬の陣では家康が、夏の陣では幸村が布陣して激戦地となった「茶臼山」へ、奈良時代に和氣清麻呂が河内川の流れを南に引こうとした河底沼と共に、天王寺公園の風景に取り入れられている。(小学生時代に写生に来た茶臼山と、60年振りの再会となった)

「慶沢園」では、山野草の展示が開かれ、可憐な花々に女性達の目が釘付けに。四阿で休息を取り、本日のウォークは散会となり、希望者は新世界へ、串カツへと流れていく。

万歩計が14,000歩に、皆様、お疲れがでませんでしたでしょうか。